

「梅鶯」のルーツを訪ねて③
会長 森 勝昭

□梅鶯仏教青年会の活動内容

「例会」

例会は、当初毎月10日と決められていましたが、昭和26年より毎月2回開催されています。

「会報」

会報は、昭和24年2月に長野覚了法輪寺前住職の執筆により第1号が発行されています。回覧方式で碓北から順次回して会員に仏法を伝えておられていたそうです。



有料映画会が催されました。会場は坂田小学校講堂で、映画は、
○「次郎長一家罷り通り」
○「アチャコちゃんバラ手帳」
の二本立てで、料金は、
（前売券）大人30円 子供20円
（当日券）大人40円 子供30円
入場者数735人の売り上げ総収入は2万9500円で、お礼・税金・電気代等を支払った後の差し引き利益は1万1千170円となりました。これが会の運営資金となりました。

さらに昭和33年には、

○「赤胴鈴之助」

○「俺はまっっている」

○「チエミのサザエさん」

の三本立てが上映され、小学校講堂は超満員で、他字からも観賞に來られ大変な好評であったと記録されています。

なお、映写機は長浜映画社や八幡別院より借りておられました。つづく

*次回以降も活動内容の紹介を続けます。

べ竹 灯籠の夕

十二月三十日（金）

夕4時半より竹灯籠点灯
夕5時よりお勤め（正信偈）

懇親会

法話
引き続き

十一月二十六日に、法輪寺の報恩講が厳修され、仏士の併修のもと、会員も参拝して、夜には御伝鈔の拝読と懇親会を開催。

住職による
御伝鈔解説



藤浪講師も参加しての懇親会

われ称えわれ聞くなれど

南無阿弥仏の
つれていくぞの
親のよび声



題材法話

『花園』という月刊の宗教冊子（臨済宗妙心寺派発行）があります。

その中に、精神科医の友久友雄氏と、保育士の川島由里子さんが、子どもの成長について語り合う「このころの往復書簡」という記事があります。

その9月号にこんな記事があります。

「砂場で、友達と同じお皿に手を伸ばした四歳のジャ

ンケンショ君が「ホナ」の

のこう君が負けてしまっ

のです。負けたのでお皿

う手を離しました。でも

ちやをグチャグチャにし

した。一部始終を見守っ

いた。担任が「負けちゃ

たね、悔しいね。お皿使

「チガウー」と言う、

も、「チガウー」と大泣



もその事情に自分の気持ちがついていかなかった。そのど

うし「違うんだね。使いた

と。の「違うし、悔しいの

違「うね」と言う、泣き止

て「ウン」と言い、泣き止

み「これは、子どもの社会性

育むには、子どもの社会性

受け入れ、認めることが大

である、私はこの記事を

すが、私はこの記事を

で、思わず「分かった」と

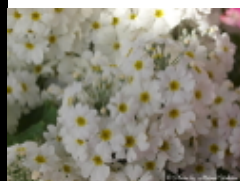
うなずいてしまいました。

○**煩惱具足の凡夫**

私達は社会生活を送るた

めに、法律や社会ルール等

を守りながら生活していま



ありません。では阿弥陀様はどんな

でしようか。阿弥陀様は慰

め、励まし「煩惱」なだ

ん。それは「煩惱」なだ

と仰り、その「煩惱」な

い「の」であり「私もその

しみを共にする」と仰る

です。

○**編集者へのメール**

実はその記事の編集者

ある三野久美子さんに、

龍谷大学の名誉教授でもあ

る友久先生を紹介したのは

私であり、そのご縁で次の

メールを送りました。

三野久美子様
謹啓 お元気でご活躍の
ことと拝察致します。
（中略）



「かりますね。そんな時、

悲しんでくれる人」が居

ほしいですね。金子みず

の詩を思い出しました。

◎さびしいときに、よそ

私「さびしいときに、よそ

の人は知らないの。お友

私「さびしいときに、お母

私「さびしいときに、お母

さんがやさしいの。お母

私「さびしいときに、お母

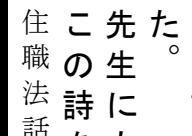
私がさびしいの。お母

○**三野久美子さんの返事**

長野了法様

わざわざメール頂き、有

り難うございました。
（中略）



「チガウーチガウー」と

いう「君の気持ちが読者

の方々に伝わるかどうか

思案していただきました。

野様が「こんなにストレー

にあり、嬉しかったです。

ださ、金子みずさんの詩、

の心に響きました。

友久先生と川島先生にも

野様のご感想とこの詩を

けす。

住職法話より